

## 平成28年度 第3回 アーバンデザインスクール 実績報告

平成29年1月14日  
草津市総合政策部草津未来研究所  
アーバンデザインセンターびわこ・くさつ

### 1. アーバンデザインスクールの目的

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ（UDCBK）は市民・大学・企業・行政のそれぞれの立場の人々が気軽に立ち寄り、草津市の未来について自由に語り合う場として開設した。アーバンデザインスクールでは、アーバンデザインセンターびわこ・くさつ（UDCBK）の企画や運営に積極的に関わり、専門家と市民の間のより円滑な意見交流をサポートする、媒介の機能を担う専門家の育成を目的とする。

### 2. アーバンデザインスクール内容等

初年度ということから、「アーバンデザインスクールを知る」をテーマに5回シリーズで実施する。全5回のコーディネーターは肥塚浩氏（立命館大学経営学部教授）。

各回スケジュールは以下のとおり。

機能	日時	内容
第1回	平成28年11月12日(土曜)	テーマ：「アーバンデザインセンターとは？」 講師：信時正人氏 (立命館大学デザイン科学研究センター客員研究員)
第2回	平成28年12月10日(土曜)	テーマ：「松山アーバンデザインセンターの運営」 講師：松本啓治氏 (愛媛大学防災情報研究センターアーバンデザイン研究部門教授)
第3回	平成29年1月14日(土曜)	テーマ：「UDCBKのコンセプトができるまで」 講師：溝内辰夫 (UDCBKシニアディレクター)
第4回	平成29年2月18日(土曜)	テーマ：「南草津駅の商業集積について(仮)」 講師：大橋康男 (草津市都市計画部まちなか再生課参事)
第5回	平成29年3月11日(土曜)	テーマ：「これからのUDCBKについて」 講師：及川清昭 (UDCBKセンター長・立命館大学工学部教授)

いずれも会場は市民交流プラザ中会議室で行う。

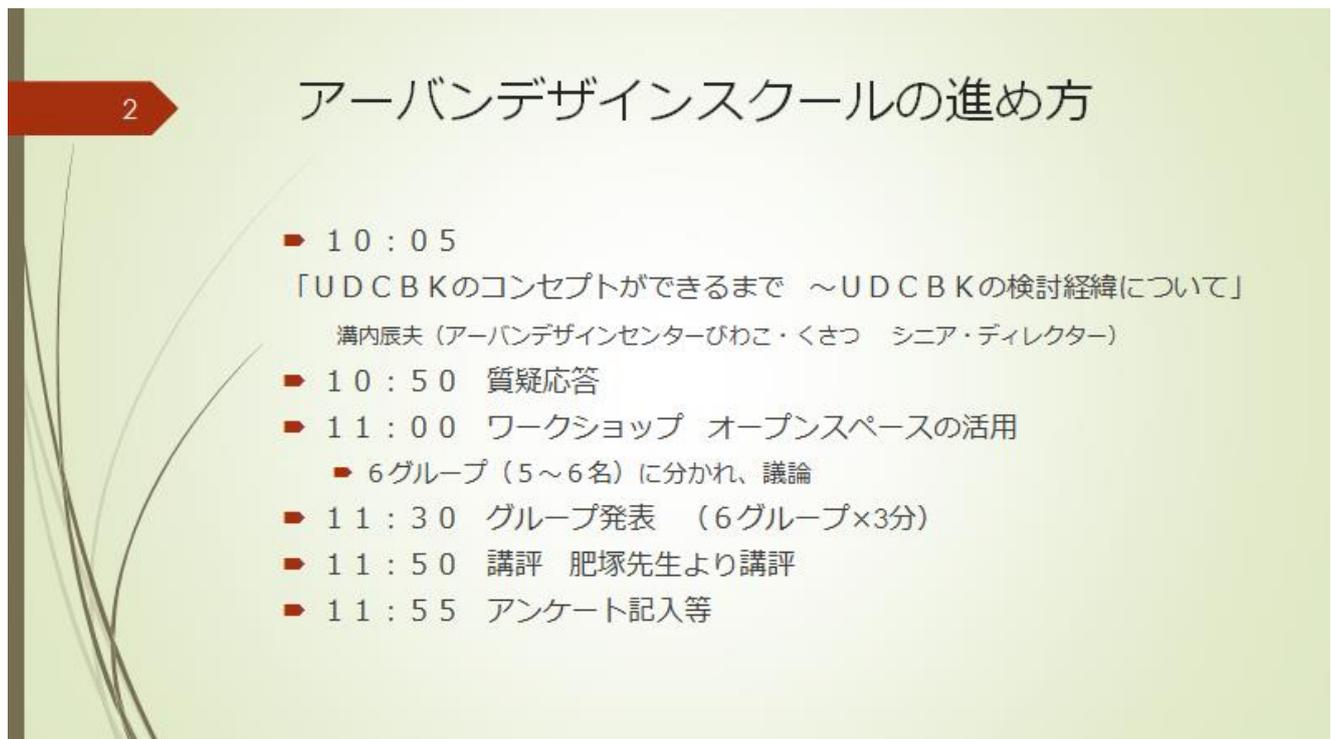
時間は午前10時から正午まで。

### 3. 第3回 アーバンデザインスクール概要

#### (1) テーマ・目的等

- ① テーマ：「“UDCBK” のコンセプトができるまで  
～UDCBK 検討経緯について～」
- ② 内容：アーバンデザインセンターびわこ・くさつ（UDCBK）のコンセプト  
が出来るまでの検討経緯について。
- ③ 開催日：平成29年1月14日（土曜）午前10時から正午まで
- ④ 開催場所：市民交流プラザ 中会議室（フェリエ南草津5階）
- ⑤ 講師：溝内 辰夫  
（アーバンデザインセンターびわこ・くさつ シニアディレクター）
- ⑥ コーディネーター：肥塚 浩 氏  
（立命館大学経営学部教授）

#### (2) 当日のスケジュール



2

## アーバンデザインスクールの進め方

- 10:05  
「UDCBKのコンセプトができるまで ～UDCBKの検討経緯について」  
溝内辰夫（アーバンデザインセンターびわこ・くさつ シニア・ディレクター）
- 10:50 質疑応答
- 11:00 ワークショップ オープンスペースの活用
  - 6グループ（5～6名）に分かれ、議論
- 11:30 グループ発表（6グループ×3分）
- 11:50 講評 肥塚先生より講評
- 11:55 アンケート記入等

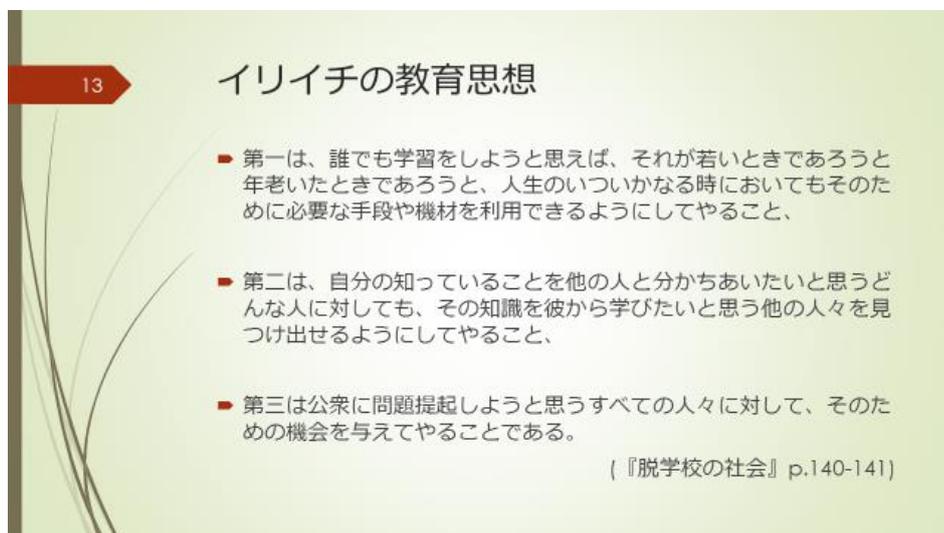
#### 4. 第3回アーバンデザインスクールの内容について

##### (1) 溝内 辰夫（アーバンデザインセンターびわこ・くさつ シニアディレクター） による話題提供

テーマ：「“UDCBK” のコンセプトができるまで  
～UDCBK の検討経緯について～」(約 45 分間)

##### UDCBK のコンセプトの参考となった考え方

氏の過去の経歴等から、UDCBK のコンセプトを作るうえで意識した考え方について紹介があった。



またハイエクの「庭師（ガーデナー）としての行政」についても言及があり、今後は行政が政策などを考え、市民の意見を聞くのではなく、市民が政策などを考え、行政が参加することになるだろうとの見解が示された。

##### UDCBK のコンセプトを示す三つのキーワード

UDCBK のコンセプトを考える上での三つのキーワードを提示した

- ① サードプレイス
- ② 未来（志向、思考、試行）・産学公民連携
- ③ アフォーダンス

##### サードプレイスとしてのUDCBK

過去の南草津エリアの調査研究や市民意識調査を踏まえ、子育て世代、外国にルーツを持つ人、学生、通勤者、高齢者等の第一の居場所である家庭でもなく、第二の居場所である職場でも学校でもなく、第三の居場所としてのUDCBKの役割が説明された。

またUDCBKが、子育て世代、外国にルーツを持つ人、学生、通勤者、高齢者等のサードプレイスになることによって、自然と混じり合う仕掛けが重要であることを指摘した。

#### 未来（志向、思考、試行）・産学公民連携

UDCBKは未来（志向、思考、試行）であり、現在の諸条件で事業を評価することは原理的に不可能なことから、公助良俗に反しない限り、試行すべきとの考えが示された。

その際の産学公民連携とは、立場を離れ、気軽に自由に対話を行い、その経験をそれぞれの立場に戻った時に活かすことであり、UDCBKでは具体的な事業を行わず、具体的な事業はそれぞれの立場で行うことであることが説明された。

#### アフォードダンス

UDCBKは、多様な人々が立場を離れ、気軽に自由に対話（学習・交流）して、アイデアや活動を生み出す場であり、最終的にはアーバンデザインの専門家が具体的なデザインに表現することである。そのひとつの考え方としてアフォードダンスという概念の紹介があった。

#### まとめ

UDCBKのベースとなる考え方と最終的には実際のまちのデザインを示していくことが示され、そのためには多様な人がUDCBKに参加し、未来の活動を生み出していく仕掛けが必要なことが説明された。特にUDCBKでは場所性・空間のデザインが大切なことが説明され、予定される新拠点の重要性について言及があった。

## （2）質疑応答

Q.財政面、費用面はどうしていくのか。

草津市外の方は参加できるのか。

A.財政面としては草津市の事業として運営している。（肥塚氏）

草津市内外問わず、草津市を良くしたいという人は誰でも歓迎している。

また、草津市外でも自分の地域で同じ取り組みをしたいという人も歓迎している。

さまざまな地域の方に、UDCBKでの活動の経験を活かしてもらいたい。（溝内）

Q.アフォードについて詳しい説明をしてほしい。

A.デザインの力で、普段意識していない人にも自然に活動を誘発させるという働きかけ。例えば、町並みをデザインすることで自然と歩きたくなる人が増える・・・等。

（溝内）

Q.新拠点はみんなで創っていけるのか。だれもが意見を出せる場になるのか。

A.皆さんの意見を取り入れた場になる。（UDCBKセンター長 及川氏）

### (3) グループディスカッション

6グループに分かれて「オープンスペースの活用方法」について議論。(約30分間)

6つのグループに分かれ、「オープンスペースの活用方法」についてUDCBKをサードプレイスとしてどのように活用したいか、をテーマに各グループで議論し、意見をふせんやカラーマーカーを使って模造紙にまとめていただきました。



写真3. 各グループの話し合いの様子

### (4) 各グループのまとめを発表

#### 各グループの意見

- ①
  - ・文化に関わった企画をしたい。
  - ・自由な発言ができる場にしたい。
  - ・新拠点では空間を有効活用したい。
- ②
  - ・話し合い  
さまざまな立場の人々（行政や企業）と気軽に話せる場にしたい。
  - ・発信の場  
多様な分野の人々が発表できる場にしたい。
  - ・カフェ  
カフェのような雰囲気、学生が気軽に立ち寄り、情報の発信、受信ができる場にしたい。



写真4. 発表のようす

- ③
  - 机やソファがあり、気軽に入りやすい雰囲気。
  - パソコンやスマートフォンが使いやすい場所。(WiFi等)
  - 仕切りがあり、プライベートな会話ができる場。
  - 子どもが入れる。
  - 手軽に講座が開ける場。
  
- ④
  - さまざまな立場の人々が自由な言動ができる場。
  - 会いたくなる人がいる場。
  - 安心して自分の意見を言える場。
  
- ⑤
  - 問題を出し合って議論できる場。
  - さまざまな立場の人々が集まる場。
  - 議論を蓄積し、データ化し、つながりを広げる場。
  - サードプレイスになることが大切。

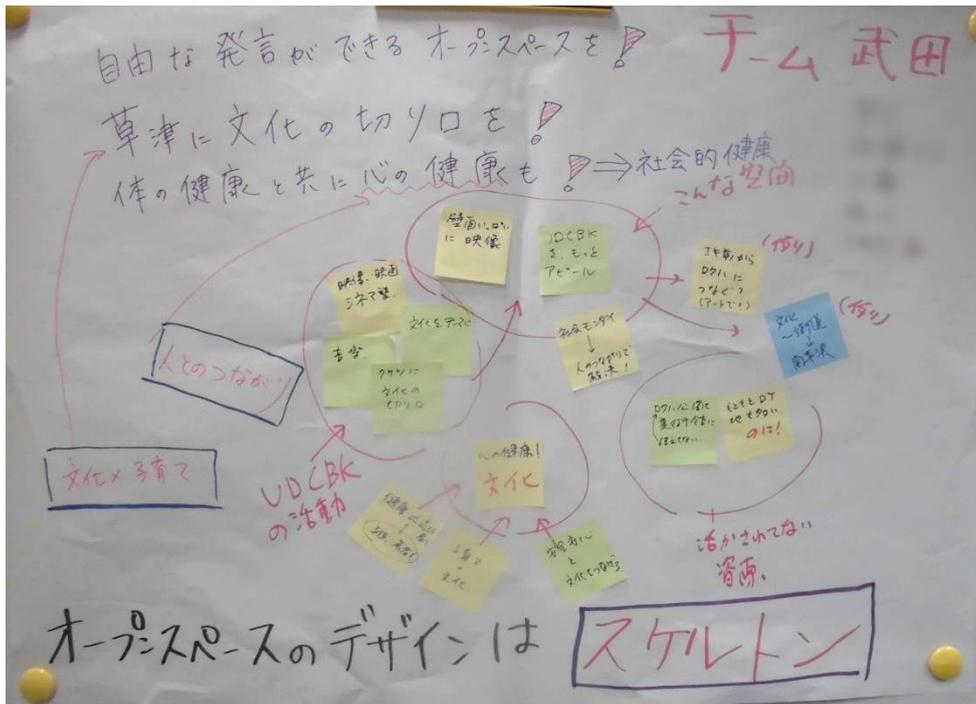


写真5.グループのまとめ

- ⑥ • UDCBK に目的がない人でも、気軽に立ち寄れる場。(WiFi や充電器の充実)
- 仕事をしている人も気軽に立ち寄れるよう工夫が必要。



写真6.各グループのまとめ

(5) 講評

➤ 及川センター長

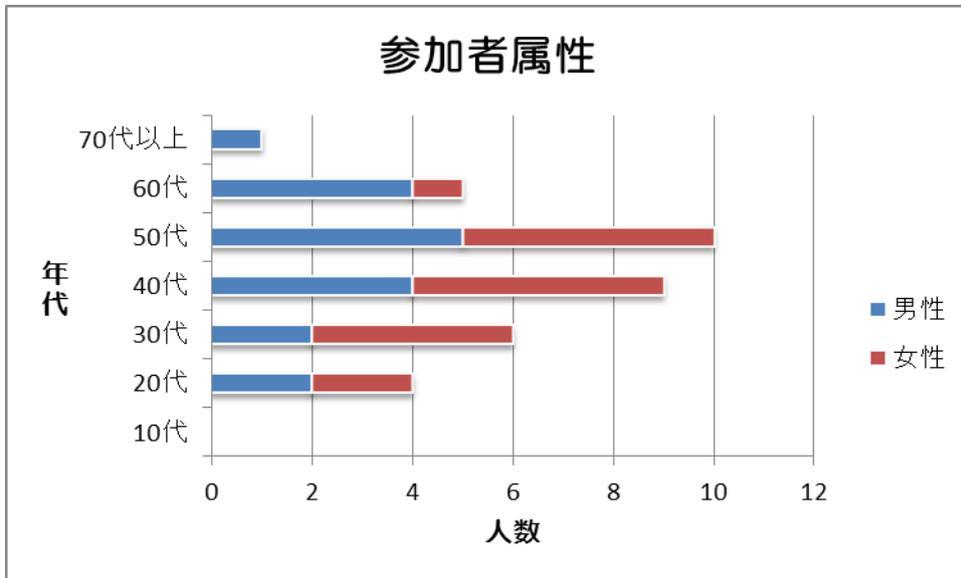
- 改めて新拠点の大切さ、建築の重要性を説明された。具体的には第5回のアーバンデザインスクールで説明する旨、お話しいただいた。

※今回のワークショップでの「新拠点の活用方法」について、皆さんに出し合っていた意見をもとに、「新拠点の活用のためにどのような設備や機能が必要か、どのようなレイアウトを求めるか」を提案していただくワークショップを後日開催することになりました。

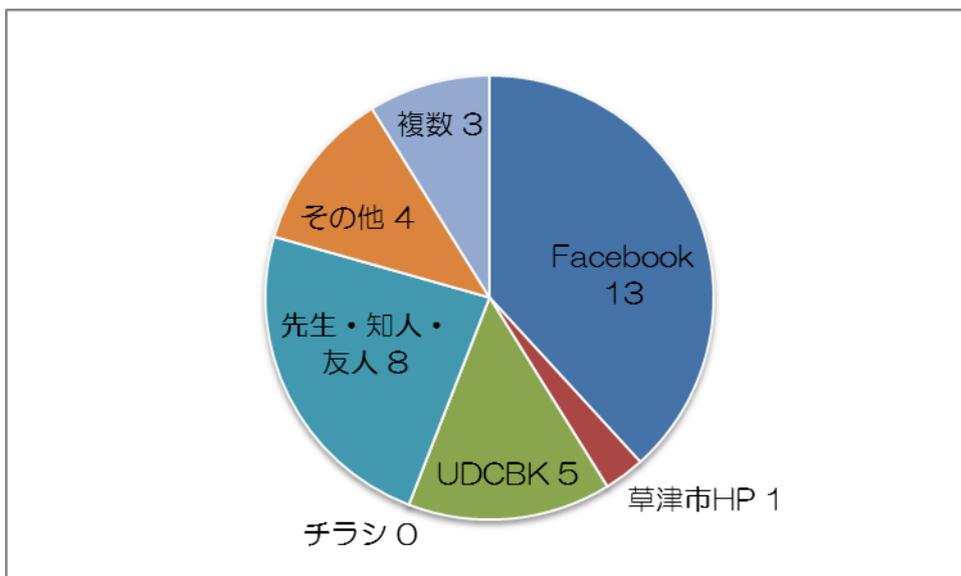
## 5. 第3回 アーバンデザインセンターとしてのまとめ

### ▶ アンケート集計結果

参加者数 38 名に対して、アンケート回収数は 35 件でした。回答率は 92%でした。



Q.アーバンデザインスクールをどこで（何で）知りましたか？



UDCBK の Facebook で知っていただいた方が一番多い結果となりました。  
また、UDCBK のオープンスペース内でスクールの開催を見て参加申込をされた方が増え、UDCBK が少しずつ周知されていることが窺えました。

➤ セミナー参加者の主な意見

- UDCBK の成り立ちなどは良くわかった。今後はより多くの方に知っていただくことと、今後の活動の評価をどのように考えていくのかを検討する必要がある。
- この活動はあまり知られていないので（特に大学生）様々な方法で広めていきたい。段々と広めていって、町を活性化させていきたい！私は滋賀県と縁もゆかりもなかったですが、住んでみてこういう活動をしているのを知って素晴らしい町だなと思いました。
- あっという間にいろいろなアイデアが出てきて、素晴らしいWSでした。にぎやかに自由なことを話しているが、いずれも具体的で現実的なところをついていて、おもしろかった。いろいろと改変が可能なフレキシブルなUDCBKの空間にするべきだと思った。
- 今回のセミナーに参加して、大学生とどうやってUDCBKに人を呼んだら良いか等考えるきっかけになった。自分と同年代の学生がUDCBKに集まるともっと多様性が出て、おもしろい化学反応が起こると思った。
- いつも話さない話題で、心だん話さない相手と話せて良かったのですが、私のテーブルは、参加者の話す時間がなくなって残念でした。せっかく来てくれた参加者の意見をもっと出す時間があれば良かったのにな。
- はじめての方とお話ができて、「文化」というキーワードがうまれた事が良かった。人との出会い、つながりがうまれるアーバンデザインでいいですね。もっと多くの方に知ってほしいスペースです。JR駅ごとの生活圏になっていて南草津周辺だけのものにならないよう多くの方に知っていただき、活用いただきたいし、活用したいです。

➤ UDCBK としての成果

UDCBK のコンセプトについて、特に新拠点の重要性について理解いただき、新拠点を検討するワークショップの開催が決定しました。またワークショップでさまざまなアイデアが提案され、来年度の事業計画の参考資料が収集できました。

➤ 今後の課題

ワークショップのテーマが、オープンスペースの利用ルールを考えることを意図していましたが、オープンスペースで行うイベントや新拠点の整備等になってしまいました。

UDCBK は本来気軽に自由に対話していただく場でもありますが、ワークショップのデザインの仕方が課題として浮き彫りになりました。